

2020年10月10日

杉田水脈国会議員の発言に抗議します

自由民主党の杉田水脈議員は、性暴力被害者の相談事業の話合いの中で「女性はいくらでもうそをつけますから」と発言しました。

今までも性的少数者のカップルに対する「生産性がない」発言、選択的夫婦別姓導入の衆議院代表質問では「だったら結婚しなくていい」とヤジ発言、慰安婦問題発言等々。いまだ息苦しさを抱えて生きている少数者の方がたや、泣き寝入りを強いられつつも、今ようやく声を上げ始めた性暴力被害者の方がたを、どん底に突き落とすような発言に国会議員として資質を問いたいと思います。

性犯罪の刑法が、非親告罪化するなど、110年ぶりに改正されました。この歳月、被害者の方がたの中には心身の苦しみに耐えながら自分自身に落ち度があったと自らを責め続けた方がたもいます。その方がたに「女性はいくらでもうそをつけますから」と声掛けするのですか。性暴力は「魂の殺人」と言われ久しいです。そして、たとえ訴えたとしても、受けとめられず、むしろ攻撃されるという二次被害に遭う現実があります。昨今では伊藤詩織さんが自ら傷つきながら、訴えたことに対し日本に住むことも困難なほどに誹謗中傷されています。

「性」とは、「わたしは何者で、どのように生きるか」という根本的なことです。一人一人に与えられている自由で平等の権利で、尊いものです。それを傷つけたり、否定したりするような言動や振る舞いは人権侵害であり、犯罪です。

今回の杉田議員の発言「女性はいくらでもうそをつけますから」は、女性のみならず性暴力被害者にとって、語ることが更に信じてもらえなくなると感じ、相談を諦めさせることに繋がり兼ねません。性暴力撲滅を訴える「フラワーデモ」主催者らは、杉田議員に発言の撤回と謝罪、議員辞職を求める署名を集め、10月3日時点で13万筆を越えたと言われていますが、自民党は「日程調整中」という回答で署名を受け取っていないと伝えられています。

杉田議員のこれまでの「生産性がない」発言や、伊藤詩織さんへの中傷発言は、海外メディアでも取り上げられ、国際的にも問題となり、批判されています。今回、口頭注意でうやむやに終わらせるのではなく、党として、また政府として、この度の発言が意味することを熟慮し、杉田議員への対応と被害者の「嘆きの声」にどう向き合っていくのかを明らかにして頂きたいと思います。